



## 東京女子医大東医療センター区内最終診療は12月29日 新病院外来診療開始は2022年2月を予定(入院開始は検討中)

健康・危機管理対策調査特別委員会で東京女子医科大学東医療センター移転後の病院整備及び運営に関する基本協定書(原案)に関して報告がありました。

1934年7月に東京女子医学専門学校病院分院が尾久に開設されて87年。尾久地域で長年医療を提供し続けてくださった東医療センターは12月29日に区内での診療を終えます。足立区への移転は1月5日とのことです。

移転後は(社医)正志会が新病院を設立・運営します。荒川区は正志会と整備運営に関する基本協定(主な内容は右表)を結ぶ予定です。

これまで要望してきた周産期医療は、現在も協議中です。東医療センターは大学病院ですが、尾久地域の周産期医療を担ってきました。女子医で「生まれた」「出産した」という方は尾久地域に多くいらっしゃいます。引き続きこの地で出産ができるよう、超党派で強く要望します。

周産期医療とは・・・ (都福祉保健局ホームページより)

「周産期」とは、妊娠22週から出生後7日未満までの期間をいい、合併症妊娠や分娩時の新生児仮死など、母体・胎児や新生児の生命に関わる事態が発生する可能性が高くなる期間です。周産期を含めた前後の期間における医療は、突発的な緊急事態に備えて産科・小児科双方からの一貫した総合的な体制が必要であることから、特に「周産期医療」と表現されています。

基本協定書(原案)の主な内容

協議状況

1 病床構成及び病床数	
急性期病床、回復期リハビリテーション病床、地域包括ケア病床等の合計240床以上を整備する。このうち急性期対応については75床以上を確保する。	東京都から正志会へ病床240床の配分が決定済み
2 診療科目	
内科、外科、小児科、救急科、整形外科、産科、婦人科その他の診療科目を総合的に整備する	産科における分娩については、感染症対応等との関係を考慮しながら協議中 発達障害等への対応については、診療科目(小児科)の中での対応を協議中
3 日本医科大学付属病院との連携救急医療体制	
診療については日本医科大学付属病院と連携し体制を確保、経験豊富な医師を配置する 日本医科大学付属病院と連携を図りながら、二次救急以上24時間365日の救急医療体制を整備する	日本医科大学付属病院としても新病院の重要性を認識しており、医師の派遣についても対応するとの回答を得ている
4 災害時感染症医療への対応	
災害拠点病院として、地域の安全と安心に貢献する 感染症発生時には、区内の感染症患者等を積極的に受け入れるなど、地域の感染症医療の拡充を図る	公園エリアを活用した災害拠点病院機能の整備を調整していく
5 地域の医療機関や町会商店街等との連携交流	
地域の医療機関や介護施設との間で患者の紹介を双方で実施する等、きめ細かい連携を図る 町会、商店街等と連携する協議の場を設け、積極的な交流を図る 周辺薬局に配慮し、院内薬局は設けないこととする	町会、商店街等との具体的な交流の方法等については、協議中
6 外来棟の活用	
外来棟を活用し、各種健診、健康教育等、区の保健医療及び福祉施策に関する連携と協力を図る	外来棟の具体的な活用内容について、日本医科大学付属病院も含めて協議中

なお、病院の施設整備に係る必要経費及び区の負担金額、建物等の賃料等については継続して協議を進め、基本協定書案に反映していくとのことです。今後ともご報告します。



## 終戦76年 「黒い雨」訴訟 国が上告断念、被爆者と認定

広島への原爆投下後、放射性物質を含む「黒い雨」により健康被害を受けたとして住民ら84人が被爆者と認めた広島最高裁の判決を受け、菅首相は上告を断念しました。「ただちに被爆者健康手帳を交付したい。同じような事情の方についても救済を検討したい。」としました。原告88人の内19人が亡くなっています。一刻も早い救済が求められます。対象を狭めてきた制度の見直し、核兵器禁止条約への日本の批准を引き続き求めていきます。

原爆と人間展に行ってきました

「原爆と人間展」(主催:原水爆禁止荒川協議会、後援:荒川区・荒川区教育委員会、会場:町屋文化センター)に行ってきました。日本被爆者団体協議会作成のパネルと、映像、広島の高校生が被爆者から聞き取りをして描いた絵が沁みました。二度と繰り返させません。

都営住宅8月定期募集  
申込書配布期間

8月2日(月)~11日(水)  
申込書記入などでわからないこと、お困りのこと、お気軽に北村事務所にご相談ください。



# 緊急事態宣言延長 新型コロナ感染とワクチン接種の状況

第5波、4度目の緊急事態宣言が延長されることになりました。不安定なワクチン供給やPCR検査の不足、さらにはオリンピック・東京2020大会開催とデルタ株の猛威で新型コロナウイルス感染拡大が止まりません。今こそ、誰もが受けられるPCR検査と充実した経済支援、感染者へのケアが更に必要です。広島県や岐阜県飛騨市では夏の期間中、帰省者などを対象に無料のPCR検査を実施しています。こういった対策が必要ではないでしょうか。

荒川区の感染状況(右図)やワクチン接種状況について委員会報告がありました。区のホームページでも感染状況が確認できます。感染された方の回復をお祈りいたします。

**ワクチン接種状況** 65歳以上の区民の接種率は7月28日現在84.2%となりました。今後は現役世代、若い世代の皆さんの接種率を高められるかが問われています。若い人ほど副反応も強く、接種に対して心配や疑問が当然あります。ご自身で冷静に、正確に判断できるように、丁寧に情報発信するよう求めました。

**訪問接種チームは8月上旬から** 訪問接種や個別接種も始まりました。かかりつけ医が訪問できない方を対象に、区が編成する訪問接種チームによる接種を8月上旬から実施する予定で荒川区医師会と準備をすすめています。

**今後のワクチン供給 13万人分は確保済み** 国が順次供給量を示すことになっていて、以前不透明です。ただし、荒川区の現状で

1 ワクチン接種状況(令和3年7月27日現在)

(1) 年齢別

年齢	接種者数	対象者数	接種率
65歳以上	42,232	50,143	84.2%
12~64歳	31,146	146,510	21.3%

(2) 接種場所別

接種場所	接種者数
区集団接種会場	54,718
区個別接種・訪問接種	10,918
国大規模接種会場	1,288
職域接種	3,357
他市区町村	3,097
合計	73,378

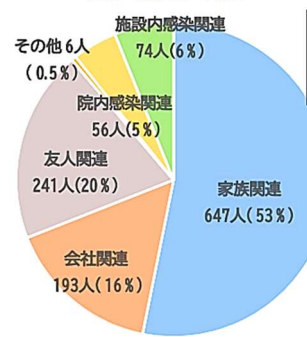
261,500回分のワクチン、約13万人分は確保しています。対象区民の68%に供給できる計算です。

荒川区は供給状況に合わせてワクチン接種予約枠を拡大していますが、情報発信がホームページやSNS、インターネットだけでなく掲示板なども活用するよう要望しました。

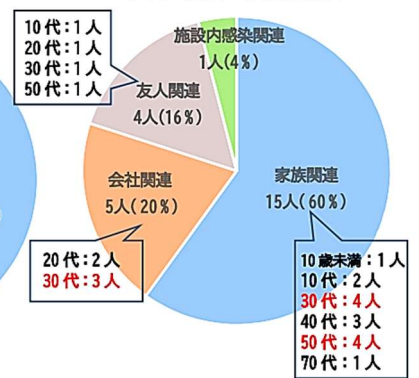
なお、住民登録されていない方でも、ご本人が接種を希望する場合は接種できるようにもなりました。(問合せ先: 感染症予防係: 電話 03-3802-4243)

*数値は速報値につき、今後の東京都の調査状況等により、変動の可能性がある	これまでの累計数		直近1週間 7月20日~7月26日 (カッコ内は前週数)	
	陽性者数	3,218人		150人(130人) ↑ 24人(37人) ↓
入院	-		10代2人, 20代1人, 30代5人, 40代5人, 50代8人, 60代1人, 70代2人	
宿泊療養	-		38人(33人) ↑ 10代3人, 20代14人, 30代7人, 40代5人, 50代8人, 60代1人	
入院・療養調整中、 自宅療養	-		88人(60人) ↑ 10歳未満1人, 10代9人, 20代23人, 30代25人, 40代15人, 50代14人, 80代1人	
接触歴				
接触歴あり(*次頁参照)	1,217人	37.8%	25人(60人)	16.7%
接触歴なし	2,001人	62.2%	125人(70人)	83.3%
症状の有無				
有症状	2,735人	85.0%	138人(123人)	92.0%
無症状・不明	483人	15.0%	12人(7人)	8.0%
死亡者数	24人		0人	

<累計の接触歴内訳>



<直近1週間の接触歴内訳>



## 新型コロナウイルス感染症自宅療養の方には

### 1. 体調の確認

療養期間中は、保健所から毎日体調確認の電話連絡を行っています。保健所からの電話連絡に対し応答がなく、安否確認が取れない場合には、万が一の事態を考慮し、自宅まで訪問することがあります。

### 2. パルスオキシメーターの貸与

パルスオキシメーターは、指先にはめて血液中の酸素飽和度を測り、数値によって健康状態を把握することができる測定器です。保健所からの体調確認時等に活用いただくため、パルスオキシメーター(現在340個保有、200台追加予定)を貸出しています。

### 3. 自宅療養に伴う食料品の支給

買い物等外出ができない自宅療養者に向けて、食料品の物資3日分をご自宅に配送(置き配)しています。食料品

は、東京都が設置した「自宅療養者フォローアップセンター」または「荒川区保健所」より配送しています。荒川区ではこれまでに44セット利用されました。

### 【コロナ関連問合せ(まずはかかりつけ医にご相談を)】

★かかりつけ医がない・かかりつけ医が受診時間外の場合

#### 東京都発熱相談センター

(土曜・日曜、祝日含む、24時間) 電話 03-5320-4592

聴覚障害のある方: ファクス 03-5388-1396

★症状はないものの感染等への不安がある場合の相談窓口

#### 東京都新型コロナコールセンター

(土曜・日曜、祝日含む9時~22時) 電話 0570-550571

聴覚障害のある方: ファクス 03-5388-1396

対応言語は日本語、英語(English)中国語(中文)、韓国語(한국)。

荒川区保健予防課 感染症予防係: 電話 03-3802-4243

## 定例☆法律相談

日時: 8月20日(金) 18:30~20:00

会場: 北村あや子事務所

TEL&FAX: 03-3894-6668

くらし・仕事のお悩み...ひとりで悩まずご相談ください。

弁護士と北村が相談をお受けします。

お急ぎの場合は別途ご案内します。

7月30日(金)、西尾久のスーパーバリュー駐車場入口で4歳児が事故にあい、お亡くなりになりました。段ボール回収業者の車にはねられたそうです。翌日現場には、お花やジュースが供えられていました。心よりお悔やみ申し上げます。

再発防止として、区と尾久警察署は注意喚起の看板を設置します。また、道路と歩道を分ける白線が擦れていたため修繕を求めました。事故当日はガードマンが配置されていませんでした。スーパー側は今後、ガードマンを連日配置するという事です。

事後現場は通学路でもあります。このような痛ましい事故が二度と起こらないように、引き続き対策が求められます。